

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第 8 回学協会長会議

開催日時 平成 25 年 5 月 22 日
13 時 00 分から 14 時 00 分

開催場所 幕張メッセ国際会議場 304 号室
(〒261-0023 千葉県美浜区中瀬 2-1)

第 8 回学協会長会議次第

1. 前回議事録確認
 (資料) 第 7 回議事録 (P1-4)
2. 日本地球惑星科学連合活動報告
 - ・ 2013 年連合大会報告 (速報) (資料) (P5-6)
 - ・ 2014 年連合大会概要 (資料) (P7)
 - ・ AOGS2014 札幌大会について (資料) (P8-9)
 - ・ ジャーナル関連報告 (資料) (P10-12)
 - ・ 2013 年 IGU 京都国際地理学会議へのブース出展について (資料) (P13)
3. 日本学術会議の近況報告 (別紙資料)
 - ・ 大型研究計画マスタープラン改定
4. その他

名簿

団体会員学協会

NO	学会名	代表者		ご出席者	
1	日本宇宙生物科学会	会長	大西武雄		小林憲正
2	一般社団法人日本応用地質学会	会長	千木良雅弘		(代表者)
3	日本温泉科学会	会長	西村進		(代表者)
4	日本海洋学会	会長	植松光夫	幹事	原田尚美
5	特定非営利活動法人 日本火山学会	会長	宇都浩三		(代表者)
6	形の科学会	会長	種村正美		松岡 篤
7	日本活断層学会	会長	中田 高	副会長	熊木洋太
8	公益社団法人 日本気象学会	理事長	新野 宏		(代表者)
9	日本鉱物科学会	会長	村上 隆		(代表者)
10	日本地図学会	会長	森田喬		(代表者)
11	日本古生物学会	会長	間嶋隆一		(代表者)
12	日本沙漠学会	会長	豊田裕道		高橋新平
13	資源地質学会	会長	浦辺徹郎		
14	公益社団法人 日本地震学会	会長	加藤照之		加藤照之
15	日本情報地質学会	会長	升本真二		
16	日本水文科学会	会長	鈴木啓助		(代表者)
17	一般社団法人 水文・水資源学会	会長	谷 誠		(代表者)
18	生態工学会	会長	大政謙次	理事	大西充
19	生命の起原および進化学会	会長	藤井紀子		
20	石油技術協会	会長	山本一雄		
21	公益社団法人 日本雪氷学会	会長	中尾正義		(代表者)
22	日本測地学会	会長	福田洋一		(代表者)
23	大気化学研究会	会長	今村隆史		(代表者)
24	日本堆積学会	会長	伊藤慎		(代表者)
25	日本第四紀学会	会長	遠藤邦彦		水野清秀
26	日本地学教育学会	会長	牧野泰彦		(代表者)
27	地学団体研究会	会長	大平寛人		(代表者)
28	公益社団法人 日本地下水学会	会長	嶋田純	理事	谷口真人
29	日本地球化学会	会長	吉田尚弘		(代表者)
30	地球環境史学会	会長	川幡穂高		(代表者)
31	地球電磁気・地球惑星圏学会	会長	中村正人		(代表者)
32	日本地形学連合	会長	武田一郎		(代表者)
33	一般社団法人 日本地質学会	会長	石渡明		
34	日本地熱学会	会長	松永烈		浅沼 宏
35	地理科学学会	会長	由井義通		前杵英明
36	公益社団法人 日本地理学会	理事長	荒井良雄		(代表者)
37	日本地理教育学会	会長	西脇保幸		欠席
38	地理教育研究会	理事長	小林汎		
39	一般社団法人 地理情報システム学会	会長	浅見泰司		玉川 英則
40	公益社団法人 東京地学協会	会長	松田時彦		松田時彦
41	東北地理学会	会長	島田周平		(代表者)
42	土壌物理学会	会長	溝口勝		森 也寸志
43	日本粘土学会	会長	山田裕久	常務委員	山崎 淳司
44	日本農業気象学会	会長	大政謙次		石郷岡 康史
45	公益社団法人 物理探査学会	会長	茂木透		
46	日本陸水学会	会長	熊谷道夫	幹事長	楊 宗興
47	陸水物理研究会	会長	北岡豪一		北岡豪一
48	一般社団法人 社団法人日本リモートセンシング学会	会長	山口靖		(代表者)
49.	日本惑星科学会	会長	田近英一		(代表者)

公益社団法人日本地球惑星科学連合
第 7 回学協会長会議議事録

開催日時 : 平成 24 年 10 月 2 日 (火) 13 時 30 分から 15 時 40 分

開催場所 : 東京大学地震研究所 1 号館 3 階会議室 (東京都文京区弥生 1-1-1)

出席者 : [学協会] 石渡明(日本地質学会・議長), 野村文明(日本応用地質学会), 西村進(日本温泉科学会), 津田敦(日本海洋学会), 中田節也(日本火山学会), 種村正美(形の科学会), 村上隆(日本鉱物科学会), 有川正俊(日本国際地図学会), 間嶋隆一(日本古生物学会), 小島紀徳(日本沙漠学会), 浦辺徹郎(資源地質学会), 加藤照之(日本地震学会/日本測地学会), 西脇二一(日本情報地質学会), 谷誠(水文・水資源学会), 兒玉裕二(日本雪氷学会), 角和善隆(日本堆積学会), 遠藤邦彦(日本第四紀学会), 牧野泰彦(日本地学教育学会), 丸井敦尚(日本地下水学会), 豊田栄(日本地球化学会), 川幡穂高(地球環境史学会/連合), 篠原育(地球電磁気・地球惑星圏学会), 田村俊和(日本地形学連合), 松永烈(日本地熱学会), 荒井良雄(日本地理学会), 竹内裕一(日本地理教育学会), 玉川英則(地理情報システム学会), 中尾征三(東京地学協会), 山崎淳司(日本粘土学会), 石郷岡康史(日本農業気象学会), 三ヶ田均(物理探査学会), 熊谷道夫(日本陸水学会), 山路永司(日本リモートセンシング学会), 田近英一(日本惑星科学会) [学術会議] 永原裕子 [連合] 津田敏隆, 木村学

議事内容 :

1. 前回議事録確認およびご出席者自己紹介

2. 新規加入学協会「地球環境史学会」の紹介

津田会長より、地球環境史学会からの 9 月 20 日付の入会申し込みを受けて、連合第 5 回理事会(9 月 28 日開催)にて審議の結果、正式に入会が承認されたことの報告がなされた。地球環境史学会川幡会長より、学会の活動内容の概要説明および入会の挨拶がなされた。連合の団体会員数は 49 となった。

3. 日本地球惑星科学連合活動報告(津田会長)

1) 新体制の紹介

昨年度の代議員およびセクションプレジデント選挙を経て、新体制となった連合の新役員、セクションボードメンバーの紹介がなされた。引き続き学協会との共存共栄の方針である。

2) 2013 年連合大会準備状況等について

2012 年大会の報告と 2013 年大会の準備状況等の報告がなされた。

・9月3日より、セッション提案の受付を開始している。例年のペースではあるが、現在の提案数は26件のみであるので、最終的には前回並み(177)になるようご協力をお願いしたい。締切は10月26日(木)である。また、10月1日からは展示企画への出展者の募集も開始している。

・現会場が手狭になってきたため、より多くのスペースを確保するためにどうするかが問題になっている。具体的に2014年以降の大会について、他会場での開催の可能性やメッセ展示場を部分的に借りて10会場を増やしつつ会期を縮める案などかかる経費と照らし合わせ、年末までに結論がでるように検討する。

3) AOGS2014について

2014年7月28日から8月1日までの日程で札幌にて開催される。AOGSからの依頼で、LAC(Local Advisory Committee)を立ち上げる。連合からは会長、副会長、セクションプレジデント、北海道大学からは渡部重十氏、これに加え日本学術会議からも参加するように要請する予定である。コミュニティに広く参加を呼びかけるなど連合としてAOGS2014を成功に導くために協力をおこなう。学協会長会議においてもAOGS2014日本開催を盛り上げるべく協力をお願いしたい。財政的な支援の要請はない。

4) ジャーナル関連

連合の川幡理事よりジャーナル発行についての経緯と現状について詳細な報告がなされた。

・8月15日付けで、連合のジャーナルに関する現状や趣旨を理解していただくために、Q&Aをまとめて、理事、サイエンスセクションに配信するとともに連合のホームページへ掲載した。1万字以上で丁寧に説明しているので参照いただきたい。

・科学研究時補助金(研究成果公開促進費-国際情報発信強化-)での最大のポイントとなるオープン・アクセス電子ジャーナルについて、その概念、背景などの理解が不足しているので、本件について内外の動向を解説するとともに、ヨーロッパなども含めて将来のトレンドについて説明した。

・現在、科学研究時補助金(研究成果公開促進費-国際情報発信強化-)への申請準備を進めている。本科学研究時補助金に予算要求を予定されているJpGU参加学協会にも役立つと思い、申請書(案)に基づき、項目ごとに詳しい説明を行った。締切は11月16日ではあるが、機関を通じての手続きを考えて10月20日すぎにまとめることになる。申請後は来年5月にヒアリングがおこなわれる予定である。

・ジャーナルの創刊は平成26年1月、発行形態はオープンアクセスの電子ジャーナルとし、内容はレビューと連合大会での発表からセレクトした論文とする。特に、将来的には特別セッションなどを開催して、質の高い論文を掲載する新規試みなどを通じて、多くの学会にJpGUジャーナルを活用してもらう企画なども紹介された。現在、理事会メンバーが中心となってジャーナルの名称を決めている。

- ・ 今後の予定としては、10 月初旬に JSPS を訪れ、申請に関するテクニカルな部分について質問するとともに、10 月 9 日の JSPS シンポジウムに参加してさらなる情報を集め、10 月初旬に「科研費成果公開促進費対応臨時委員会」を開催して、JpGU 参加学協会とも情報を共有することと伝えた。
- ・ 学協会あてに 9 月末までをめどでお願いしていたエディター、運営委員会メンバーについては、10 月第 2～3 週に集まっていただき今後の方針などを検討する予定である。

4. 日本学術会議の近況報告

地球惑星科学委員会永原委員長より、現在取り組んでいる 3 つの重要課題について説明がなされた。

1) 地球惑星科学委員会提言作成

コミュニティに向けての発信も視野にいて、以下の 6 つの枠組みについて作成していく。今年中に第 1 校をまとめ、年明けにパブリックコメント受付を経た上で、来年 3 月末までに発信を行う。

①地震学的理解と課題、②津波についての理解と課題、③福島原発事故による放射性物質拡散と課題、④自然災害リスクマネジメントにおける地球惑星科学の役割と課題、安全安心な国土基盤設計に向けて、⑥リテラシー教育。

2) 大型研究計画マスタープランの改定

2011 年にマイナーチェンジされたものを改訂し、大型計画」と「重点計画」の 2 つ策定をおこなう。スケジュールは、2013 年 2 月公募、3 月締切、4 月公開シンポジウムを開催し提案課題を議論した上での評価選別、6 月計画策定、12 月重点計画策定、2014 年完成の予定である。完成したプランについて、文科省に限らないフィードバックの方法も模索する。大規模な予算を希望するプランについては、コミュニティの保障があるものが望ましいので、提案者は研究・教育機関長、部局長、学協会長等を想定している。

3) 大学教育参照基準づくり

中教審の依頼に要請により、文章の作成とその内容の議論を進めている。大学の質保証と関連し評価基準として使われることを視野にしている。大学の学習指導要領という位置づけとなり、後々この基準をもとに運用される現場が困らない内容になるように留意している。主目的は、学生が大学において身につけるべき基本的素養についての指針を作成することであり、細かい Item よりも概念の記述に重きを置くと思われる。

5. その他

- ・ 原子力規制委員会より、10 月下旬に派遣する大飯原発周辺の調査団について、「日本活断層学会」「日本地質学会」「日本第四紀学会」「日本地震学会」へ委員推薦の依頼があった（石渡）。依頼のあった 4 学会（ただし活断層学会は欠席）から、現在はそれぞれ選出作業中であるとの報告があった。

- ・津田会長より、前回会議の連絡経緯の説明と連絡の不手際についてのお詫びがあった。
- ・日本地球化学会豊田庶務幹事より、2016 年 Goldschmidt Conference（ゴールドシュミット国際会議）が日本で開催されることが報告された。
- ・次回は、平成 25 年 5 月 22 日（水） 12 時 30 分から 13 時 30 分、幕張メッセ国際会議場 302 号室にて開催予定である。

以上

 2013 年大会報告（速報） (5/21 現在)

■開催：2013 年 5 月 19 日(日)～24 日(金)6 日間
 幕張メッセ 国際会議場

■主催：公益社団法人日本地球惑星科学連合

■団体会員：49 学協会

日本宇宙生物科学会	水文・水資源学会	日本地質学会
日本応用地質学会	生態工学会	日本地熱学会
日本温泉科学会	生命の起原および進化学会	地理科学学会
日本海洋学会	石油技術協会	日本地理学会
日本火山学会	日本雪氷学会	日本地理教育学会
形の科学会	日本測地学会	地理教育研究会
日本活断層学会	大気化学研究会	情報システム学会
日本気象学会	日本堆積学会	東京地学協会
日本鉱物科学会	日本第四紀学会	東北地理学会
日本地図学会	日本地学教育学会	土壌物理学会
日本古生物学会	地学団体研究会	日本粘土学会
日本沙漠学会	日本地下水学会	日本農業気象学会
資源地質学会	日本地球化学会	物理探査学会
日本地震学会	地球環境史学会	日本陸水学会
日本情報地質学会	地球電磁気・地球惑星圏学会	陸水物理研究会
日本水文科学会	日本地形学連合	日本リモートセンシング学会
		日本惑星科学会

■協賛：日本高圧力学会、日本サンゴ礁学会、日本大気電気学会、日本天文学会

■後援：44 団体

■開催セッション数

(*)内数字は国際セッション

セッション名	2013 年	2012 年	2011 年	2010 年
U: ユニオンセッション	7 (*2)	7 (*2)	9 (*5)	4 (*1)
O: パブリック（一般公開プログラム）	5	4	4 (*0)	4 (*0)
P: 宇宙惑星科学	23 (*10)	26 (*13)	22 (*8)	27 (*5)
A: 大気・水圏科学	26 (*6)			
(海洋・環境科学)		22 (*5)	20 (*4)	22 (*5)
H: 地球人間圏科学	22 (*8)	20 (*8)	22 (*6)	17 (*4)
S: 固体地球科学	58 (*11)	60 (*6)	61 (*11)	58 (*11)
B: 地球生命科学	10 (*2)	10 (*2)	10 (*3)	9 (*2)
G: 教育・アウトリーチ	4			
(地球惑星科学総合)		5	5 (*0)	4 (*0)
M: 領域外・複数領域	25 (*4)			
(学際・広領域)		23 (*6)	21 (*4)	23 (*4)
合計	180 (*43)	174 (*42)	174 (*41)	167 (*32)

■投稿件数 : 3967 件

(2012 年 3876 件) (2011 年 4044 件) (2010 年 3686 件) (2008 年 3088 件) (2007 年 3218 件)

- ・口頭発表 2213 (2012 年 1975 件) (2011 年 2354 件) (2010 年 2090) (2009 年 1732) (2008 年 1766)
- ・ポスター発表 1754 (2012 年 1901 件) (2011 年 1685 件) (2010 年 1596) (2009 年 1356) (2008 年 1452)

■事前参加登録者状況 : 3478 (2012 年 2747、2011 年 2913、2010 年 2741、2009 年 2248)

会員種別	券種	一般	教員	院生	シニア	学部生	高校生	合計
会員	1 日券	369	17	134	2	6	0	5
会員	全日程	1823	18	755	41	63	0	2700
大会会員	1 日券	74	0	11	0	1	0	86
大会会員	全日程	126	0	26	4	8	0	164
合 計		2392	35	926	47	78	0	3478

■当日来場者数速報 : 4440 (5/22 現在、出展関係者、金環日食イベント関係者除く)

登録カウンター来場者数 : 3643

	会員種	券種	一般	教員	院生	シニア	学部生	高校生	合計	
事前	会員	一日	174	12	79		1		266	2196
事前	会員	全日	1256	14	516	13	17	1	1817	
事前	非会員	一日	37	1	5				43	
事前	非会員	全日	50		11		9		70	
当日	会員	一日	296	6	106	3	6		417	1316
当日	会員	全日	618	4	182	13	16		833	
当日	非会員 (ID 有)	一日	24		3				27	
当日	非会員 (ID 有)	全日	28		9	2			39	
当日	非会員 (ID 無)		131						131	131
合計			2614	37	911	31	49	1	3643	3643

総合案内来場者数 : 797

	一般	教員	院生	シニア	学部生	高校生	プレス	会合	合計
20 日パブリックセッション	200	6	1	3	1	190			401
高校生発表登録 (概算)						180			180
ジオパーク登録 (概算)	120								120
上記指定以外パブリック登録	80	6	1	3	1	10			101
				27	265		70	34	396
合計	200	6	1	30	266	190	70	34	797

※出展関係来場者 : 351

■団体展示 : 54 ブース (2012 年 43、2011 年 44、2010 年 48、2009 年 43)

■大学インフォメーションパネル : 12 ブース (2012 年 13、2011 年 11、2010 年 10、2009 年 5)

■書籍出版 (関連商品) : 20 ブース (2012 年 29、2011 年 26、2010 年 26、2009 年 28)

■パンフレットデスク : 7 ブース (2012 年 8、2011 年 11、2010 年 9、2009 年 11)

■学協会エリア 個別デスク : 8 ブース (2012 年 10、2011 年 10、2010 年 12、2009 年 9)

AOGS2014 札幌大会について

■開催日時

2014 年 7 月 28 日（月）～8 月 1 日（金）

■開催場所

ホテル名：ロイトン札幌

〒060-0001 北海道札幌市中央区北 1 条西 11-1

アクセス

・新千歳空港 →→→→→→→→→ ホテル・ロイトン札幌
空港バス（約 1 時間 10～30 分）

・新千歳空港 →→→→→→→→→ 札幌駅 →→→→ ホテル・ロイトン札幌
JR 千歳線快速（約 36 分） 車・タクシー（約 5 分）

札幌駅 →→→→→→→ 西 11 丁目駅 →→→→ ホテル・ロイトン札幌
地下鉄南北線/東西線（約 11 分） 徒歩 3 分

■LAC メンバー

The Local Advisory Committee (LAC) for AOGS 2014

Chair

Toshitaika Tsuda （津田 敏隆）

Kyoto University

President of Japan Geoscience Union(JpGU)

Members

Gaku Kimura （木村学）

The University of Tokyo

Vice President of JpGU

Hodaka Kawahata （川幡穂高）

The University of Tokyo

Vice President of Japan Geoscience Union(JpGU)

Masato Nakamura （中村正人）

Institute of Space and Astronautical Science of Japan Aerospace Exploration Agency

Vice President of Japan Geoscience Union(JpGU)

Teruyuki Kato （加藤照之）

The University of Tokyo

Committee for International Affairs of Japan Geoscience Union(JpGU)

Eiji Ohtani （大谷栄治）

Tohoku University

Section President (Solid Earth Sciences) of Japan Geoscience Union(JpGU)

Hiroshi Kitazato (北里洋)
Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology
Section President (Biogeosciences) of Japan Geoscience Union(JpGU)
Council Member of Science Council of Japan(SCJ)

Teruyuki Nakajima (中島映至)
The University of Tokyo
Section President (Atmospheric and Hydrospheric Sciences) of Japan Geoscience Union(JpGU)
Council Member of Science Council of Japan(SCJ)

Yoshiharu Omura (大村善治)
Kyoto University
Section President (Space and Planetary Sciences) of Japan Geoscience Union(JpGU)

Yukio Himiyama (氷見山幸夫)
Hokkaido University of Education
Section President (Human Geosciences) of Japan Geoscience Union(JpGU)
Council Member of Science Council of Japan(SCJ)

Hiroko Nagahara (永原裕子)
The University of Tokyo
Council Member of Science Council of Japan(SCJ)

Junichiro Kawaguchi (川口淳一郎)
Institute of Space and Astronautical Science of Japan Aerospace Exploration Agency
Council Member of Science Council of Japan(SCJ)

Shuhei Okubo (大久保修平)
The University of Tokyo
Council Member of Science Council of Japan(SCJ)

Tetsuzo Yasunari (安成哲三)
Nagoya University
Council Member of Science Council of Japan(SCJ)

Shigeto Watanabe (渡部 重十)
Hokkaido University
Chair of Local Organizing Committee of AOGS2014

「ジャーナル関係経過報告」

1. 現状

1) JpGUジャーナルの名は「Progress of Earth and Planetary Science」と決定した。出版開始は、2014年1月を予定している。編集委員会は50名で構成され、50%が海外在住の研究者から構成される予定である。

2) JpGUの独自の予算で小規模にでも開始することが第7回理事会にいて全会一致で認められた。「Progress of Earth and Planetary Science」の出版に関する入札を行うため2013年4月5日公示、19日締め切りで、入札を行い、1社が応札した。契約交渉を開始している。

3)「科学研究費補助金 海外情報発信強化」のヒアリングが2013年4月23日に行われた。現在、審査結果待ちの状態である。

4) 49学会と協力し、Open Access E-journalの発行をめざす。科研費が通るかどうかは不明であるが、出版会社と2013年6月に仮契約し、2013年7月にはselected paperの募集を開始するべく準備を開始している。

5) JpGUジャーナル編集委員会より「JpGU新ジャーナル幹事会」を組織し、ジャーナル原稿の募集要綱をほぼ決定した。さらに、編集委員長などについて議論中で、近日中に決定する予定である。

6) 連合大会でU-04「オープンアクセス電子ジャーナルと学術出版の将来」をユニオンセッションで開始する。趣旨は、「日本地球惑星科学連合ではオープンアクセス電子ジャーナルの2014年の刊行を目指して準備中である。本件は、「国際情報発信強化」といった日本の科学会全体が直面している課題を背景としている。本セッションでは、オープンアクセス電子ジャーナルの概念、ビジネスモデル、学術出版の将来、地球科学研究に与える影響について、他分野の招待講演者も含めて幅広く情報交換するとともに議論を行う。」ことである。

セッション会場：幕張メッセ国際会議場 国際会議室

セッション日時：5月22日（水） 15:15 - 18:00

15H15-20分（5分間挨拶）

津田敏隆（公益社団法人日本地球惑星科学連合 会長、京都大学）

15時20-45分（25分間）林 和弘（文部科学省科学技術政策研究所）

日本の学術雑誌による海外情報発信力強化

15時45分-16時10分（25分間）

北里 洋（日本学術会議委員，独立行政法人海洋研究開発機構無）

16時10-35分（25分間），遠藤 悟（東京工業大学大学マネジメントセンター）

米国におけるオープンアクセス化に関する政策論議の展開

16時35分-17時（25分間）加藤 憲二（静岡大学理学研究科附属図書館）

電子ジャーナルとオープンアクセス

17時-17時25分（25分間）小田啓邦（Earth Planets and Space運営委員会議長，（独）産業技術総合研究所）

欧文誌“Earth, Planets and Space”のオープンアクセス化

17時25分-50分（25分間），川幡 穂高（公益社団法人日本地球惑星科学連合副会長，東京大学）

日本地球惑星科学連合によるオープン・アクセス電子ジャーナルの創刊

17時50分-18時（10分間），全体討議

2. 平成 24 年度公益社団法人第 7 回理事会（平成 25 年 3 月 7 日(木)）

・第 1 号議案 新連合ジャーナルの経過と今後の予定について

川幡理事より 11 月 13 日に「科学研究費補助金」の書類が提出されたことが報告された。出版社が決まり次第，運営委員会，編集委員会を開催する。49 学会と協力し，Open Access E-journal の発行をめざす。科研費が通るかどうかは不明であるが，出版会社を入札で決定 2013 年 6 月に仮契約し，自己資金 で縮小した形でスタートすることが全会一致で 認められた。ジャーナル名は Progress of Earth and Planetary Science を第一案とし，出版社とも相談して正式に決定していくことが全会一致で認められた。

3. 平成 24 年度公益社団法人第 6 回理事会（平成 24 年 12 月 26 日(水)）

・川幡理事より 2012 年 11 月以降の経過について報告があった。11月13日に日本学術振興会に計画調書を直接提出した。サイエンス・セクション・プレジデントおよびバイス・・プレジデントへも文書で報告した。

- ・書類上の現状での第一段階編集委員は海外11名, 日本人11名となっているが, 現時点では, 海外19名まで増えており, 最終的には各々25名以上を予定している. 分野のバランス などとともに海外・国内の編集委員についてサイエンス・セクション・プレジデントの 方々と相談したいという希望が伝えられた.

- ・AGU執行部との会合が12月6日にSan Francisco, Moscone Center North Rm. 123で行われた. JpGUのジャーナル計画について川幡理事が紹介し, AGUの執行部はopen access の仕組みや価格設定などについて関心を示した. 特にJpGUのジャーナルについて, 値段 がかなり低いことに少し驚いた様子であったので, JSPSによる補助が最初期待できるが最終的には一人立ちしなければならないことを説明した. AGUのジャーナルの出版事業をWiley-Blackwell に委託することを決定したという報告を受けた. ただし, 著作権はAGUにある(競争入札にしたが, 入札条件の一つとして挙げた). Wiley-Blackwell のon-line 技術を利用して原稿内のcross referenceなど簡単に手に入れることができること, 世界的な販売があることなどの利点がある.

4. 公益社団法人日本地球惑星科学連合 第 7 回学協会長会議(平成24年10月2日(火))

- ・8 月 15 日付けで, 連合のジャーナルに関する現状や趣旨を理解していただくために, Q&A をまとめて, 理事, サイエンスセクションに配信するとともに連合のホームページへ掲載した. 1万字以上で丁寧に説明しているので参照いただきたい.

5. 平成 24 年度公益社団法人第 4 回理事会 (平成 24 年 7 月 31 日(火))

- ・7 月 2 日に京都大学で行われた EPS 関連 5 学会の会議で JpGU として open-access のe-journal を発行することが確認されたことが報告された.
- ・8 月 9 日に東京大学で第 3 回科 研費成果公開促進費対応臨時委員会が開催され, 各学協会に説明を行った.

2013 年 IGU 京都国際地理学会議

■開催日時

2013 年 8 月 4 日（日）～8 月 9 日（金）

■開催場所

国立京都国際会館

〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池（正式住所：〒606-0001 京都市左京区岩倉大鷲町 422 番地）

アクセス

・JR 京都駅 →→→→→→→→→→→ 国際会館駅 →→→→ 国立京都国際会館

地下鉄烏丸線（約 20 分）

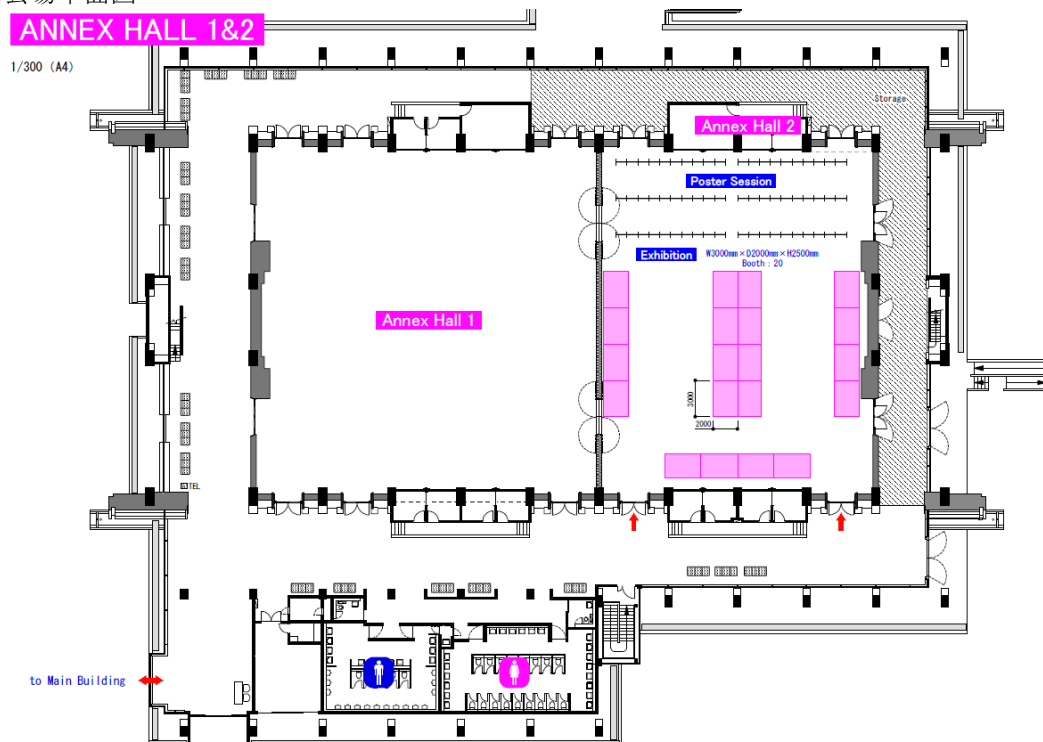
徒歩 5 分

・京阪本線京阪三条駅 →→→→→→→→→→→ 国際会館駅 →→→→ 国立京都国際会館

地下鉄東西線/烏丸線（約 20 分）

徒歩 5 分

■会場平面図



地球惑星科学に関する学術研究の
オープンアクセス電子媒体刊行による
国際情報発信の取組

— オープンアクセス刊行支援、新規出版 —

Progress in Earth and Planetary Science

申請時の計画調書の **"Space and Geosphere"** から改名

(公益社団法人) 日本地球惑星科学連合 会長 津田 敏隆
副会長 川幡 穂高
副会長 中村 正人



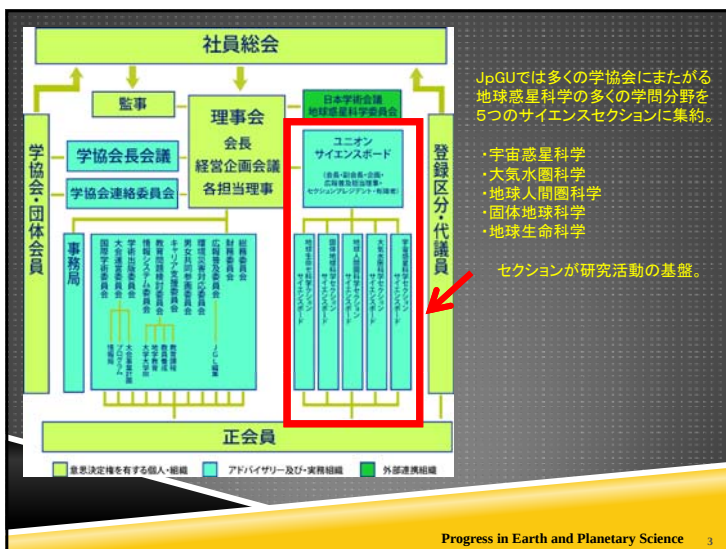
日本地球惑星科学連合 (JpGU; Japan Geoscience Union)

1990年(H22)	地球科学関連5学会が合同で学術大会を開催したのが始まり
2005年(H17)	日本学術会議の改革に対応して、地球惑星科学関連の学協会を調整する窓口組織として発足
2008年(H20)	一般社団法人 日本地球惑星科学連合
2011年(H23)	公益社団法人 日本地球惑星科学連合

地球惑星科学の49学協会が参加
毎年5月に6日間千葉県幕張メッセにおいて連合大会を開催（秋は各学会が独自開催）
2012年（H24）論文発表案件数（口頭・ポスター）は約4,000件
全参加者約7,500人、毎年増加傾向↑
（日曜日にはアウトリーチイベントを開催。例：「東日本大地震」、
「金環日食」、「NASA/JAXA、衛星による地球観測」、高校生・一般は無料）

→JpGU は日本に基盤を置き、世界に科学成果を発信する拠点 となることを目指す。

現在、連合大会ではアブストラクトのみを公表。
→本事業では、連合大会での優秀な発表を Open Access E-Journal で公表すべく



JpGU独自のジャーナルを創刊する意義

1. 日本の地球惑星科学コミュニティの唯一かつ最大の学術組織である JpGUが、公益事業として、連合大会開催とともに、ジャーナル発行に取り組む使命がある。ジャーナル発行は、JpGUが世界の重要なプレーヤーとしての影響力を持つために必須の条件である。(アメリカのAGU: JGR、ヨーロッパのEGU: Ann. Geophys.)
2. 日本のオリジナルな発想による研究成果 (Selected Paper) を世界に発信するジャーナルを国内で維持運営する。
3. レビュー論文を、地球惑星科学の幅広い分野について総合的・計画的に刊行し、我が国のコミュニティの力を国際的に示す。なお、国内の関連他ジャーナルはレビューをあまり扱っていない。
4. 世界の一流学術雑誌と同様に、論文誌を Open Access E-Journal として発行できるプラットフォーム/ツールを国内で整備する。



これまでの検討の経緯

欧米の一流紙(米: JGR@AGU、欧州: Ann. Geophys. @EGU)と比肩しうる独自の Open Access E-Journal を出版すべく、3年間にわたり関連49学協会をはじめコミュニティ内でじっくりと検討してきた。

その結論

- 1) 地球惑星科学において、世界の一極を担えるOA電子ジャーナルを創刊。
- 2) 連合大会における多角的・融合的な研究成果を公表。
- 3) 参加学協会との共同発行。(JpGUと参加学協会が共存共栄)
→ これらは、今回の「研究成果公開促進費」の趣旨に合致する。

本提案はJpGUに参加する49学協会すべての賛同に基づいている。

(2012年10月2日、JpGU学協会長会議決定事項)

共同出版(学会を代表して編集委員等に就任、海外編集委員を推薦)

日本宇宙生物科学会、日本応用地質学会、日本温泉科学会、日本海洋学会、日本火山学会、形の科学会、日本活断層学会、日本気象学会、日本鉱物科学会、日本国際地図学会、日本古生物学会、日本沙漠学会、資源地質学会、日本地震学会、日本情報地質学会、日本水文科学会、水文・水資源学会、生態工学会、日本雪水学会、生命の起原および進化学会、石油技術協会、日本測地学会、大気化学研究会、日本堆積学会、日本第四紀学会、日本地学教育学会、地学団体研究会、日本地下水学会、日本地球化学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、日本地形学連合、日本地質学会、日本地熱学会、地理科学学会、日本地理学会、日本地理教育学会、地理教育研究会、地理情報システム学会、東京地学協会、東北地理学会、土壤物理学会、日本粘度学会、日本農業気象学会、物理探査学会、日本陸水学会、陸水物理学会、日本リモートセンシング学会、日本惑星科学会、地球環境史学会

5

「海外研究者にとっても魅力的な一流ジャーナル」にするために

【掲載する論文のカテゴリー】 レビュー(総論)20% + JpGU大会の優秀発表(＋一般投稿)

【レビュー(総論)の位置づけ】

- ◎ レビューは「論文と本の中間」に位置し、最新の体系的な知識を集約する役割を果たす。
大学等でゼミに使用 → 国内コミュニティのレベルアップ。海外への情報発信。
- ◎ 国内既存ジャーナルにはレビュー(総論)がほとんどない → 参加学協会にもメリット。
- ◎ 複数著者による分担執筆も含む。→ 創刊号に向けて現在試行中。
- ◎ 既に、JpGU会員向けに最新トピックスを総論として季刊(各3万部)のニュースレター(和文)に掲載してきた。これらの著者に、今回創刊するジャーナルへの英文投稿を促す。

【優秀論文の発掘】 連合大会での約4,000件の発表から1(5)%を選べば、40(200)件の優秀な論文が推薦できる。採択された論文に対しコミュニティが評価すると期待。

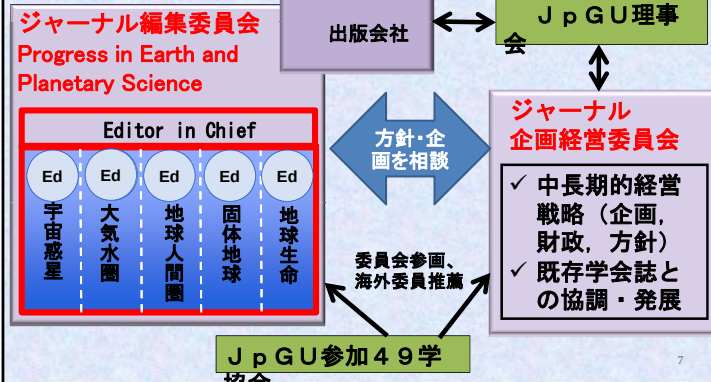
【創刊ジャーナルの目標】 OAジャーナルで「独り立ち」するには、この分野での主要国際ジャーナルより高いIF2.5以上を目指すことが不可欠。2017年初頭に最初のIFが付くが、3年間の助走期間に、海外から多くの執筆者(講演者)を招聘し、JpGUジャーナルの論文が引用される国数を増加させる。掲載論文数の増加にも重点を置く。

【具体的なアイデア】 レビューのIFは通常7-10。レビュー論文(IF>7.0)を20%含め、同時に質の高い論文を集める(IF>2.0)。IF3.0(=20%×7+80%×2)を戦略的に達成する。

【迅速な出版】 迅速な出版(最短で3週間、最長でも6ヶ月。投稿→査読→受理→掲載) 6
立ちあげ期間中は、論文査読などに謝金を給付し、ジャーナル運営にプロ意識を持たせる。

【ジャーナル出版体制】

- ✓ 2014年創刊を目指し、既に2012年度に独自予算(約1,000万円)で出版事業を開始。
- ✓ 海外5大陸に営業拠点をもつ出版社と契約を進めた。(最新情報: 入札の結果、OA電子ジャーナルでトップである Springer 社に内定)
- ✓ 企画経営と編集を司る2つの委員会を設置し、JpGU理事会およびJpGU参加49学協会との協力のもとで運営する。



7

本提案の新規ジャーナルの振興に関する新企画

【JpGU連合大会の国際化促進】

連合大会の国際セッションに著名な海外研究者に招待講演を依頼し、さらに論文執筆を要請する。(JpGUが5セッションの配当する活動費から外国人招聘旅費を支給する。外国人2名/セッション×5セッション=10名)

【JpGU連合大会の新規ITサービス: たぶん世界初!!】

連合大会の会場で、発表者のJpGU個人番号(ID)を入力すると、その発表者の「研究APPEALサイト」につながり、新ジャーナルで発表した論文などの情報が検索者のパソコンにダウンロードできる。JpGUジャーナルの引用を促進する。

【日本の研究成果の再評価と引用数の増大】

日本人は、しばしば「日本人の論文を(引用が妥当なのに)引用しない!」(国際誌の数人の編集長の証言) → 「日本人の成果を認め合い、相互の論文引用を促進」へメンタリティを意識改革。JpGU参加学協会も同様の問題を抱えるので協力して本件に対処する。

8

JpGUジャーナルの創刊スケジュール

Progress in Earth and Planetary Science

1. **創刊2014年1月をめざす。**(海外向けにはAGU、EGUなどのニュース、また国内学会誌に創刊の広告を掲載する)。
2. 創刊号のレビュー論文は主に国際的に著名な研究者(国内、海外)による。
3. **2013年5月の連合大会**の際に大々的に投稿を呼びかける。
4. 原稿受付開始 **2013年7月**。
5. 編集委員は現在38名(海外19名+国内19名)。**最終的には50名以上**。
6. 現時点では**著者負担率は20%**(最初の招待論文は無料)。一般投稿料は1,000 EUROに設定する予定。
7. OA電子ジャーナルなので、読者は無料でダウンロード可能。
8. 初年度は**約800ページ**を**2014年1月**に出版予定。
9. **創刊から3年間の助走期間**は、提携出版社とも戦略を練りながら、質の高い原稿を集め、5年後に「独り立ち」を目指す。

9

予算要求額の内訳

Progress in Earth and Planetary Science

1. OA電子ジャーナルの経費として、**1論文あたり1000ユーロ**(当初約10万円だったが、円安により現在は約12万円)(Springer社)。1ページあたり約1万円で他社と比較し妥当。**JpGU自己資金で300ページ分を負担する。**
2. 「海外情報発信強化」のために、当該学術刊行物の**実務編集者を補助する事務職員の**人件費: 300万円。
3. 総編集長(Chief Editor)、編集長(Section Editor)をはじめ**編集委員を補助する事務職員**の雇用経費: 400万円。
4. 当該学術刊行物の実務関係の「海外情報発信強化」する部分のみ、通信費およびコンピューターの借料、消耗品費: 180万円。
5. 「海外情報発信強化」の**編集会議の経費**。特に、海外委員がJpGUの連合大会の際に編集委員会に参加する旅費: 840万円。
6. 「海外情報発信強化」の**企画経営委員会開催の経費**: 300万円。
7. 論文査読謝金、受理後の英文校閲経費: 303万円。
8. **国際セッション開催を加速**するための経費: 200万円。
9. **アピールサイト**などのメモリー容量の増設: 200万円。
10. 広告・宣伝費用: 300万円。

10

まとめ

1. 日本地球惑星科学連合(JpGU)が主催する連合大会では、これまで日本のオリジナルの発想による研究成果が公表されてきた。
2. 現在、アブストラクトのみが刊行されている**優秀な発表内容を、独自に出版する Open Access E-Journal**で情報発信したい。約4,000件の発表の1(5)%を選べば、原稿は40(200)件。この多くは海外のジャーナルに流れている。
3. レビュー(総論)20%+JpGU大会の優秀発表(+一般投稿)を収録し、OAジャーナルで「独り立ち」するためにIF2.5以上を目指す。
4. ジャーナルの**企画経営委員会と編集委員会**を中心に、JpGU理事会、参加49学協会および出版社(Springer社)との協力のもとで出版事業を運営する。
5. 連合大会で多くの**国際セッション**を開催する。スマートフォンを使用した**独自の検索システム**を用いて新ジャーナルの引用促進を行うとともに、参加学協会と協力して「日本の研究成果の再評価と引用数の増大」を目指す。



11

日本地球惑星科学連合



2013年5月19日(日)-24日(金) 千葉・幕張メッセ

Progress in Earth and Planetary Science

12

JpGU の新しい Open Access e-journal

Progress in Earth and Planetary Science

2014 年 1 月創刊！！ 今夏投稿受付開始！

- JpGU は加盟 49 学会と協力して地球惑星科学をリードする雑誌を出版します。
- ジャーナルの構成：総論（レビュー），優秀論文，一般投稿。
注）優秀論文は連合大会の発表の中からセッション長が推薦し，投稿可。
- 組織構成：ジャーナル企画経営委員会＋編集委員会（50% は海外編集委員）
＋JpGU 理事会，参加 49 学協会，出版社の協力。
- 詳細なスケジュール，投稿料金等は 6 月半ば頃に学会等のニュースを通じて連絡します。

**皆様の研究成果の積極的な投稿を
お願い致します！**



JpGU New Open Access-e-journal

Progress in Earth and Planetary Science

- *You are cordially invited to submit your manuscripts to the new JpGU peer-reviewed Open Access e-journal, which aims to publish excellent review articles and quality assured original research articles, covering all fields of Earth and Planetary Science.*
- *The submission of the manuscript will start this summer, and the first volume will be published in January 2014.*
- *Our permanent goal is to publish high quality articles in order to globally contribute to the geoscience community.*
- *Further information about publication schedule, submission fee, and other related matters, will be announced in mid June on the JpGU web site and in the advertisements in AGU, EGU and AOGS journals/newspaper.*



2013年5月22日
日本地球惑星科学連合大会 学協会長会議

学術会議報告

1. 大型研究マスタープラン作り

- ✓ 2012/10-11 予備調査 地球惑星科学24件
- ✓ 2013/3 提案公募締切 地球惑星科学16件
- ✓ 2013/4 公開ヒアリング
- ✓ 本日 ユニオンセッション（午後前半まで）
- ✓ 現在 学術会議とりまとめ中
- ✓ 今年後半 重点計画の選択（全提案の~1割）
- ✓ 2014/4 マスタープラン策定

2. 大学教育参照基準作り

- ✓ 背景 中教審要求 大学教育質保証
- ✓ 2011 学術会議方針 分野別参照基準作り
- ✓ 2012 地球惑星科学参照基準作りスタート
- ✓ 現在 案がほぼ完成
- 5/19 専攻長・学科長懇談会にて議論
- ✓ 6月 パブコメ予定

3. 3.11後の地球惑星科学のあり方に関する提言

- ✓ 地球惑星科学としての総括
- ✓ 提言内容
 1. 地球惑星科学現象の誤差についての社会の適切な理解を求める活動
 2. 緊急時における情報発信の仕組み作り
- ✓ 6月案の完成 パブコメ予定